

## 平成 25 年度 鼎中学校区 小中連携・一貫教育 実施計画

学校名  鼎  中学校 生徒数 1 年 140 名 2 年 123 名 3 年 137 名 計 400 名

職員数：県費 25 名 市費 5 名 非常勤（内数）1 名

鼎  小学校 児童数 1 年 117 名 2 年 124 名 3 年 122 名 4 年 114 名 5 年 113 名 6 年 148 名

計 738 名 職員数：県費 39 名 市費 9 名 非常勤（内数）6 名

\* 児童生徒数、職員数は平成 25 年度見込み数

### 1 研究課題

一人ひとりの確かな学びとよさを伸ばすための連携した指導・支援の確立と実践

### 2 目的

- ( 1 ) 小中の学習内容の系統性や学び方に着目した授業改善を推進し、確かな学力を育成する。
- ( 2 ) 小中の学習活動や、あいさつ・清掃指導等の日常の指導を、キャリア教育の視点から見返し、それらを体系化するとともに小中一貫したカリキュラム作りを進める。
- ( 3 ) 児童生徒の状況に応じた小中一貫した支援や、特別な配慮を必要とする児童生徒への幼保小中での一貫した支援を通して、不登校・生徒指導上の諸問題の未然防止と解決をめざすとともに、児童生徒の「可能性の芽」を育てることができるようにする。

### 3 実施内容

#### ( 1 ) 確かな学力の育成に向けて

- ・小中で共通した視点で授業改善を行ったり、重点指導内容を共通理解したりすることを通して、確かな学力を育成する。(算数数学など)
- ・出前授業により、中学校職員の児童理解を深めるとともに、6年生児童の中学校の授業への不安の解消をはかる。
- ・外国語活動からつながる中学校英語学習入門期カリキュラムの実践の継続と評価・改善を進める。
- ・児童生徒の学力実態や学力に関する課題から、日常の指導に活かせる共通した実践の可能性をさぐる。
- ・合同教科等係会での全教科・総合の分科会や授業参観によって、より確かな児童生徒理解と小中の学習指導方法の学び合いを行う。

#### ( 2 ) 小中一貫したキャリア教育の推進に向けて

- ・小中で、それぞれで行っている学習活動をキャリア教育の視点から洗い出し、整理し、小中一貫したキャリア教育の体系化をめざす。
- ・あいさつや清掃指導等の背景となる指導理念やめざす子どもの姿について話し合う場を設け、キャリア教育の視点から共通理解をはかる。

- ・基本的な生活習慣の指導の実際について情報を共有し、統一して指導することや違ってよいことなどを確かめ合う。

### (3) よりこまやかな児童生徒支援に向けて

- ・昨年度作成した個別支援シートを実際に使って修正点を洗い出し、より支援に活用しやすい様式にする。
- ・小中お互いに授業参観することを通して、特別支援学級の児童生徒理解を深めるとともに、お互いの支援の具体を知り、一貫した支援が行えるようにする。
- ・教育支援指導主事を中核としたチームで、不登校傾向児童生徒への登校支援や家庭訪問を行う。また、教育支援指導主事を介して、小中の情報交換を日常的に行い、小中の支援を接続する。
- ・児童や保護者の希望に添いながら、特別支援学級6年生児童の中学校の体験学習を行う。
- ・生徒指導係による生徒指導連絡会を定期的を開催する。
- ・幼保小中特別支援教育コーディネーター連絡会を開催する。
- ・幼保小連携推進委員会を開催(年3回)し、それぞれの園や学校の状況を理解し合う。

### (4) 地域との連携

- ・今まで地域と関わってきた実践を整理し、職員間で意義を共通理解する。  
 県地区で行われる行事への参加(縦断駅伝大会、文化祭、祭り、公民館小中PTA合同講演会等)  
 小学校と地域の連携(子ども見守り活動、親子PTA研修講座、交通安全教室、水引等を学ぶ等)  
 中学校と地域の連携(縦断駅伝大会表彰式演奏、校外ボランティア活動[清掃活動、絵手紙]等)

## 4 公開の予定

- ・県小学校 地域公開参観日6月1日(土)、運動会9月21日(土)、
- ・県中学校 若鮎祭9月29日(土)

## 5 推進日程

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| ・小中合同教科等係会        | 6月19日(水)、7月31日(水)、1月8日(水)  |
| ・出前授業             | 7月1日(月)、11月25日(月)、1月21日(火) |
| ・小中連絡会            | 5月、12月、2月                  |
| ・6年生中学授業参観        | 2月                         |
| ・若鮎祭見学            | 9月28日(土)                   |
| ・6年生と中学3年生との合唱交歓会 | 11月1日(金)                   |
| ・中学校長による6年生対象の講話  | 11月1日(金)                   |
| ・幼保小中連携推進委員会      | 6月、11月、1月                  |

平成25年度

# 県中学校区小中連携・一貫教育

「郷土に愛着と誇りをもち、自己実現を図る県の子(案)」をめざして



## 確かな学力の育成

- ・授業改善、重点指導内容の共通化
- ・出前授業による児童理解と中学への不安解消



## キャリア教育の推進

- ・キャリア教育の体系化
- ・キャリア教育の視点から日常的な指導の見返しと共通理解

- ・不登校・生徒指導諸問題の解消と未然防止
- ・特別な配慮を必要とする児童生徒への一貫した支援

## 見守りによる生徒支援



## 地域との連携

- ・今まで地域と関わってきた実践の整理と意義の共通理解

### 研究課題

「一人ひとりの確かな学びとよさを伸ばすための連携した指導・支援の確立と実践」

めざす子どもの姿…「郷土に愛着と誇りをもち、自己実現を図る鼎の子(案)」

鼎小学校教育目標 「心豊かで、たくましい鼎の子」

- ・学び続ける子(知)
- ・よさを見つげられる子(徳)
- ・明るく元気な子(体)

鼎中学校教育目標 「自主」「誠実」「友愛」

- ・進んで真理を追究し、正しい判断に立って行動できる生徒
- ・なすべきことを最後までやりぬき、ごまかしや責任のがれをしない生徒
- ・互いの人格を尊重し、思いやりの心で助け合い、高め合える生徒

中・長期目標	中心組織等	今年度の具体的取組
1 確かな学力の育成	合同教科会	小中学校の学習内容の系統性への着目や重点指導内容の共通化などによる授業改善の推進 (算数・数学)
	合同教科会	出前授業による児童理解と中学の授業への不安解消
	合同教科会	外国語活動からつながる中学校英語学習入門期カリキュラムの実践と改善
	合同教科会 研究主任会	児童生徒の学力実態や学力に関する課題から、日常の指導に活かせる共通した実践の可能性をさぐる
	合同教科会	全教科等の合同懇談会の実施。授業参観による児童生徒理解と小中の学習指導方法の学び合い
	教育支援指導主事	TT 授業や児童生徒への学習支援、個別指導支援
2 小中一貫したキャリア教育の推進	キャリア教育係 (生徒指導係) (児童会・校友会係)	小中一貫したキャリア教育の体系化 あいさつや清掃指導等の背景となる指導理念やめざす子どもの姿のキャリア教育の視点からの共通理解
	生徒指導係、教育相談	基本的な生活習慣の指導の情報共有と見返し
3 よりこまやかな児童生徒支援  ・不登校・生徒指導諸問題の解消と未然防止 ・特別な配慮を必要とする児童生徒への一貫した支援	生徒指導係、特支コ	個別支援シートの活用と改訂
	特別支援教育係	小中の授業参観による児童生徒理解と支援の具体の共通理解
	教育支援指導主事	児童生徒への登校支援や家庭訪問、小中への情報提供
	特別支援学級担任	特別支援学級6年生児童の中学校の体験学習
	生徒指導係、教育相談	生徒指導連絡会の定期的な開催
	特別支援教育コーディネーター	幼保小中特別支援教育コーディネーター連絡会の開催
幼保小中連携推進委	幼保小連携推進委員会の開催(年3回)	
4 地域との連携	教頭, 研究主任, 各担当	今まで地域と関わってきた実践の整理と意義の共通理解

目標	今年度の重点活動	重点活動のねらい
1	小中学校の学習内容の系統性への着目や重点指導内容の共通化などによる授業改善の推進 (算数・数学)	小中で共通した視点で授業改善を行ったり、重点指導内容を共通理解したりすることを通して、確かな学力を育成する。
	出前授業による児童理解と中学の授業への不安解消	中学校職員が小学6年生を対象に出前授業することで児童理解を深め、児童は中学での授業スタイルを体験し中学進学への不安を解消する。
2	小中一貫したキャリア教育の体系化	小中で実践している学習活動や日常の指導をキャリア教育の視点でとらえ直し、9年間のキャリア教育の体系化を進める。
	あいさつや清掃指導等の背景となる指導理念やめざす子どもの姿のキャリア教育の視点からの共通理解	
3	個別支援シートの活用と改訂	昨年度作成した個別支援シートを実際に使って修正点を洗い出し、より支援に活用しやすい様式にする。
	小中の授業参観による児童生徒理解と支援の具体の共通理解	小中お互いに授業参観することを通して、特別支援学級の児童生徒を理解するとともに、お互いの支援の具体を知り、自校の実践にいかす。
4	今まで地域と関わってきた実践の整理と意義の共通理解	今までの地域の行事への参加や小中の地域と連携した実践を整理し、実践の意義を全職員で共通理解し、今後も地域との連携を推し進める。